

# 高齢者に特徴的な 脊椎疾患

大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学(整形外科) 海渡 貴司

## KEY WORDS

- 高齢者
- 脊椎疾患
- 外傷
- 変性
- 脊柱変形

## はじめに：高齢者の 脊椎疾患の特徴

四肢関節に生じる加齢変化には、軟骨の摩耗による関節症と関節を構成する骨の脆弱化である骨粗鬆症がある。脊椎においても四肢関節の可動部分に相当する椎間板や椎間関節の関節症や椎体の骨粗鬆症により、脊椎症や脊椎圧迫骨折をきたす。これらに加えて脊椎では、内在する神経組織の障害や二足歩行に必要な脊柱配列の破綻による立位歩行障害など多彩な障害を呈する。高齢者は運動器のみならず、感覚器(視覚・聴覚)や呼吸循環・肝腎機能低下も合併しており治療法を選択にはそれらを勘案した判断が求められる。本稿では高齢者に特徴的な脊椎疾患について病態を中心に概説する。

## I. 高齢者の外傷性脊椎疾患

高齢者に多い外傷性疾患としては、歯突起骨折と非骨傷性頸髄損傷があげられる。特徴は若年者では高エネルギー外傷が主体であるが、高齢者では平地での転倒や脚立からの落下など比較的軽微な外傷が原因となることが特徴である。特に歯突起骨折はその存在を念頭に置き、見逃しがないように注意を要する。

### 1. 歯突起骨折

軸椎(第2頸椎)の骨折は頸椎骨折の7~15%を占め、特に65歳以上の高齢者では最も頻度の高い頸椎骨折となり、80歳以上では頸椎骨折の大多数を占める<sup>1)</sup>。

環椎(第1頸椎)と軸椎は頸椎の回旋運動の大半を担っているが、それは環椎軸椎間には骨性の制動構造が乏しく歯突起が環状構造をした環椎に突き刺さり、靱帯(横靱帯)により前後方向の

Spinal disorders in the elderly.

Takashi Kaito(助教)